

## 第2回 公園活性化協議会 議事概要

**開催日時** 2021年11月8日(月) 13:30~15:00

**開催場所** 広島県立総合体育館 小会議室

**出席者** 渡邊会長 百武委員 小神田委員 松原委員 堂本委員 中野委員 住吉委員  
大前委員 井上委員 前川委員 平山委員 重光委員 宮本委員 樋口委員

**議事** 前回協議会意見への対応方針、利用者アンケート調査結果、県立3公園の現状分析、公園活性化プランの骨子(案)について事務局から説明後、「公園活性化プランの骨子(案)」について意見交換し、一部に検討意見が出たものの、事務局が整理した方向性については概ね了承を得た。

### 【まとめ】

公園活性化プランの基本的な大きな方向性はいいが、30年後に自走する姿やカーボンニュートラル、DX、防災等の公園を取り巻くキーワードを活用しつつ、現実性のある30年後の夢を描いていくよう検討してもらいたい。

### (主な内容)

#### 1 全体的なこと

- 県立3公園の費用負担について、広島県が確保する予算は現状が上限とすると、公園ごとに稼いでもらった方がいい。
- 公園活性化プランは大きな方向性を示すものであり、アクションプログラムは、公園活性化プランに基づいた事業展開などを考え、公園の経営や運営に関する費用の数値を入れるため、今後、作っていくようになる。
- 公園活性化プランの大きな方向性を決める際に、広島県都市公園条例や制度による制約を除くことも含め検討していく。
- 土木だけで完結するのではなく関連する局、課との取り組みが重要。本プランの基幹部署となる土木セクションが調整する中で、利用の可能性を探っていただきたい。

#### 2 あるべき姿

- 県立3公園共通の「あるべき姿」は、30年後ではなく、すでに今必要な状況ではないか。
- 県立みよし公園や県立びんご運動公園は、現状、スポーツ施設に関して高水準だが、30年後に現状と同じスポーツ施設の水準を維持するためには、大規模な改修・改善が出てくる。その点を考えながら30年後を描いて欲しい。
- 政府が2050年にカーボンニュートラルを目指す中で、環境・社会・経済に配慮し、県立3公園の敷地の広さを活かして、クリーンエネルギーを生み出しながら、収益性を担保

し、その運営者が収益を得ながら運営するなどの未来ビジョンを示して欲しい。

- 目指す姿やあるべき姿を検討の際に、アウトサイドインのように、これから社会で何が起こるのか、社会課題をどう扱うのかということから逆算して考える必要がある。
- 例えば、30年後に自走できる公園を想定すると、今は無理でも30年後に自走するためには何をしなければいだろうという発想に変わる。その際に自然のままで維持管理費を低くすることや、逆に収益性を上げていくこと、電力の地産地消を行うなどの自走するためのアイデアが示されれば、各公園の特徴を出すことに繋がる。

### 3 目指す姿

- 目指す姿を設定する上で「考慮した視点」の中に「コスト縮減」があるが、これは県立3公園の持続性を考えていく上で重要なキーワード。30年後のあるべき姿として「コスト縮減」だけでいいのか。収益も得ていくことも持続性には必要。
- 県立3公園ごとの「目指す姿の実現に向けた課題・取組」について、「多様なニーズへの対応」、「多様性への取り組み」の部分の記述内容が似ている。県立3公園ごとの特性に合わせた魅力向上等、少し特徴を強くした方がいい。
- 30年後、運動公園が存続するかどうかを考えると危機感を持っている。  
目標指標について、利用者数や満足度の向上だけでいいのか。また、目標指標が維持できるのか疑問。
- 利用者数の算定根拠の確認  
→ 利用者数の算定根拠は、利用者アンケートで、現状満足していないことに対して、バリアフリーなどの対応をすることによって満足へ転換すると想定して算出。  
人口減少と利用者の動向がマッチしていなかったため、人口減少は加味せず推計。  
満足度の向上については、今満足していない部分を改善することによって、利用者が1/4や1/10程度上がっていくと想定。

### 4 取組の方向

- 現在、公園の施設などの使用料は休日と平日で同じだが、利用者が少ない時には料金を安くして、利用者が多い時には高くするというダイナミックプライシングという考え方もある。
- 公園毎に特徴的なプログラムや施設があってもいい。
- 太陽光や風力などのエネルギーの地産地消を公園の中でするのは考えられる。クリーンエネルギーの場合は「公園の中での地産地消を進めるべき」など公園活性化プランに記載できると思う。
- これから公園は多様性を持つということで、地域に開かれたという視点が大きな方向性となる。運営者だけが何か縛りを受けるのではなく、地域で担っていく視点も大事。
- 地域に開かれた公園をつくるにあたり、一つのキーワードとして、防災拠点として、防災訓練体験や町内会の防災研修等として使ってもらえることが考えられる。また、スポーツ施設があるので、スポーツ大会関係から使ってもらえることも考えられる。

- 広島県はDXでデジタル化を進めていると思うが、体育館やアリーナは大きなスペースなので、例えばドローンを飛ばす練習ができるプログラムなどが考えられる。
- 30年後の公園のあり方を考える上で、テーマがいる。  
設置目的や利用者ニーズもあると思うが、例えば現状、運動公園となっている部分に「食」などのテーマが明確についてくると、今後、関わってくる事業者や企業も広がって、稼ぎ方も見えてくる。その他にも「環境と防災」で考えると、電力会社に手伝ってもらうことになる。
- 公園活性化プランの中にテーマを明確に入れていくのか、今後、指定管理者の選定の際にテーマを持って提案してもらうのかは方向性を整理する必要がある。
- テーマについてどのように書き込むのかは事務局で検討してください。
- これから先の公園活性化を考えるキーワードとして、防災や環境、DX、食などを上手く使いながら魅力向上などを図ることがよい。
- 防災というキーワードで県に求められるニーズは、土砂災害。今年は新型コロナウイルス感染によって県外の方が移動できず、県内の方が災害支援の技術を持たないといけないと相談があった。災害に関する技術者だけを入れるのではなく、スポーツやチームビルディングなどと掛け合わせて、災害支援だけでなく学校教育や企業の社員教育等にも使える。
- 土砂災害では、重機を使ったボランティアが必要になるため、土木・建築業の方やプロフェッショナルなNPO・NGOの方が重機を使える訓練の場の提供も考えられる。
- 地域課題と広島県の特徴の組み合わせを考えると、先進事例として、北広島町の「道の駅 豊平どんぐり村」が参考になる。外国人の方と地域のコミュニケーションに、地域の運動会やスポーツを活用した。広島県内で外国人を雇用している企業や地域の方が、公園の中で運動会のようなプログラムを使って地域課題を解決する可能性もある。
- 県が管理する上で必要な公共投資額が高いのに対して、一人当たりの料金が安く収まっているように、県の財政負担と県民の利用料金の比率が公平な負担になっていない点について、段階的に是正して、健全な経営に繋げていく必要がある。
- 公園の中の未利用地や用途の決まっていないエリアについては、自然のまま残っているので、新しく開発するのではなく自然のまま使うこともできる。
- 自然体験の立場からすれば、あまり人が利用しておらず木が生えていて道があるくらいの場所こそが宝。森林セラピーのような癒される場所が必要。
- アスレチック等は、維持管理費がかかるため、後々、維持管理費が無く、直せなくなることがある。施設としてあればいいというものではなく、公園を活性化する方向を見つめてもらいたい。
- 地域の人を巻き込んでいく際に、地域の方は居場所や集まる場所を求められていると感じる。